

# 巻 頭 言

経営情報学部長 松浦 博

学部改革の一つとして昨年度に導入した一般前期の英語と数学から選択する受験において、昨年の志願倍率4倍以上からは落ち着きましたが、3.4倍の応募をいただくことができました。倍率がむやみに高いことは、一方で悲しい思いをする生徒さんが増えることになると思うと心苦しいのですが、無事に入学試験も終わり、希望に満ちた新入生を迎えることになります。

学生諸君も世界秩序や日本社会が大きく変わる予兆があることは感じていることと思います。技術の世界では人工知能（AI）ブームというのが過去にも幾度かありましたが、今回起こっているブームは社会にも大きな影響を与えるものになりそうです。AIが活用されると、様々な職業が機械に取って替われ、多くの人の職を奪うと主張する人もいます。一方で、AIのもとになる機械学習、パターン認識、プログラミングなどの情報学やデータマイニング、統計学などデータサイエンスは本学部の学問領域であり、これと経営や総合政策の学問を組み合わせれば、学生諸君が社会に出てから非常な強みになると考えます。むしろ、情報学やデータサイエンスを学ばずに社会に出ていくことは武器を持たずに戦場に行くようなものとおっしゃる方もいます。

新入生をはじめとして学生諸君には自分たちが迎えようとする将来社会についての考えを深め、様々な社会問題に関心をもち、自ら取り組むべきことを明確にし、大学生活を充実させ、社会に巣立って、その中核になっていただきたいと願っています。

さて、西野勝明教授がこのたび無事定年を迎えられます。西野先生は静岡県庁に長らく奉職され、財団法人静岡総合研究機構研究部長を経て、2008年から本学部の教授を務められました。退職後も特任教授として引き続きCOC事業「地（知）の拠点整備事業」をはじめとして、地域との連携した講義などの面で本学を支えていただきます。西野先生の業績並びに功労に敬意を表し感謝申し上げますと共に、今後の益々のご活躍とご健勝をお祈りいたします。

最後になりますが、当職も4年の学部長としての任期を終えて、若い方々にバトン渡していくことになります。皆様には本紀要をはじめとして本学部に様々な支援をいただきましたことに、あらためて深く感謝申し上げます。